

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3290400211		
法人名	株式会社 ハピネライフケア		
事業所名	グループホーム すいせん渡橋		
所在地	島根県出雲市渡橋町304-1		
自己評価作成日	平成23年2月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kouhyou-c.fukusi-shimane.or.jp/kaigosip/JigyosyoBasicPub>

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1 YNT第10ビル111		
訪問調査日	平成23年3月3日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

月1回の行事を開催している。その案内を”お知らせ”として利用者のご家族或いは近隣の自治会の方々に送らせていただいている。現在土曜日をメインとして開催しているが、特に家族さんにご参加いただけない状態が続いているので今後は、実施日を日曜日にも検討していきたい。又、毎月ハピネ便りを発行しながら、苑内の様子をご家族様に知らせている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

出雲市中心の住宅街にあるホームは開設4年目を迎え、昨年度より地域に開かれた施設を目指して、毎月の行事計画が地域の方たちにお知らせしており、理解と参加をしていただけるようがんばり続けている。また、ホーム職員間の連携は良くとれており、現状のサービスの質を少しでも高めようと、職員会議や内部研修に励んでいる真最中である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念や品質方針の中に地域との連携、社会貢献についての項目があり、朝礼時に唱和を行い共有している。	法人の理念・方針を毎朝唱和し、職員と共有されている。	地域密着型サービスの意義を踏まえたホーム独自の理念を作成されることが望まれます。職員が「目標」「方針」として、日々のケアの振り返りや迷ったときに立ち戻る「基」となるのが「理念」と考えます。また、職員の意思統一、同じ方向を向き一体となりケアに取り組めると考えます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月の行事を行う際、地域の方にも案内のチラシを配布し、交流を図っている。	毎月季節に合った行事を企画され、地域へも案内しているが、なかなか参加に結び付かない現状である。納涼祭は地域の大人や子供の参加があり、少しずつではあるが交流が図られている。	運営推進会議を通して地域の方の更なる参加を目指し、また地域の情報も得ながら、地域に出ていく取り組みも必要ではないでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事の際、地域の方にも来ていただき、職員、利用者と一緒にレクなどに参加する。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の都度報告、話し合いを行い、意見は随時取り入れている。	定期的に開催され、行政や地域包括・自治会長、家族代表等の参加もあるが、定期的な出席は少ない。会議で頂いた意見は取り入れられ、運営に反映されている。	参加率の向上の為に、メンバーや開催時間の工夫をされるとより幅広い意見等が得られ、運営に活かされると思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の担当職員に参加していただき、協力関係を築いている。	運営推進会議の参加があり、必要時相談をしている。介護相談員の受け入れもあり、サービス向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間以外行っていない。禁止対象の行為などについては、カンファレンスの際に話し合い理解を深めている。	事業所内での研修はまだ行われていないが、日々の関わりで気になる場面やケアカンファレンスで、対応について話し合っている。全職員への周知については課題が残る。	職員への理解を深めるために、「身体拘束とは何か」「身体拘束をしない意味」など、基本的な考え方を定期的に研修されると良いと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特に学ぶ機会には設けていないが、虐待行為が無いよう注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に学ぶ機会を設けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	都度、説明を行い理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置しているも、意見を入れられる事はほとんどない。面会時など直接言われる事はその都度、申し送り、業務に反映させている。	家族からの意見を基に、担当職員が分かるようにしたり、お便りで担当から日々の様子を伝えたりと、反映に努められている。また、面会時にはどの職員も家族と話し、希望や意見を抽出できるよう努めておられる。	納涼祭は家族の参加が多いので、その時に家族会を開催するなど、意見を取り入れる機会を作られると良いと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われる役職者会議を意見や提案を聞く機会とし、反映させている。	法人全体の役職者会議に事業所としての意見を提案する機会はある。今年初めて職員会議を行い、ケアの統一について話し合いが持たれ、職員も効果を感じられた。	職員会議が定期的に行われ、職員の意見を集約できる場とされることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価システムを活用し個々の努力、実績を把握している。各自がレベルアップを図れるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実績と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を定期的に行い、職員のレベルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し研修会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安な事や要望等あれば逐一耳を傾け、説明を行い、安心を確保する関係を構築している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや要望を受け入れ信頼関係を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な支援について、それに対するサービスを提供し、それ以外でも利用できるサービスについても提供し説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを大切にし必要あれば都度カンファレンスを行い、職員皆で思いを共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時や面会時に家族の思いや要望を聞き、家族と同じ気持ち絆、気持ちを持ってケアにあたっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会には、近所の方や昔からの知り合いの方にも来ていただいている。	馴染みの方の来訪される方もおられる。買い物等で外出した時に、自宅の近所をドライブして馴染みの場の思いを話していただく支援もされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性やコミュニケーションの取りやすさを考慮した机や椅子の配置にしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族から相談などあればいつでも受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望などあれば随時プランに取り入れている。	普段の会話や入浴中にこぼれ出る思いを受け止め、随時職員間で情報を共有して支援に努めている。	職員間の連携は取られているようだが、思いや気づきを個別に書面に残される工夫をされると、より全体的にその人が捉えられ、支援に活かせると思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査表にて確認し以前の生活歴や環境を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル記録や毎日の介護記録を確認し現状把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	訪問時や面会時に家族の要望や意見を聞き、介護計画の作成を行っている。本人の思いも随時取り入れている。	職員全体でケアカンファレンスを3カ月毎に行い、細かな計画の見直しが行なわれている。カンファレンス記録として評価結果が残されている。	家族の参加が難しい場合も多いと思うので、見直した計画書だけではなく経緯が分かるような説明の工夫が望まれます。また、認知症の方へのケアがより深まるように、アセスメントをより細かくされると課題が見えやすいと思います。シートの工夫もよいでしょう。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を基に記録を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族と連絡を密にしニーズや状況の変化に対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物があれば参加したいと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診は隣接の内科病院から来てもらっている。急な往診にも対応してもらえるため本人及び家族にも納得していただいている。	協力医の往診があり、入居者全員が診てもらわれている。受診結果は家族へ手紙等で報告している。馴染みの歯科への受診支援もなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や持病の悪化があれば直ちに看護師に報告し、必要時直ぐに主治医に連絡できる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要な情報を提供し安心して、治療できるよう情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族やかかりつけ医と話し合い、方針を決めている。	家族の希望により、協力医と相談の上、今年度初めて看取りを行われた。職員も不安のある中、日々看護師と連携を取りながら対応された。	この事例での経験を十分に生かしていただき、今後も研修をしながら、次の事例へとつなげて頂くと良いと思います。また、緊急時対応や看取り・死生観について研修を重ねて行かれることを希望します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	特に訓練などは行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、また、地域住民の方にも参加していただき、協力体制を築くとともに避難方法も身に付けている。	年1回夜間想定で利用者と共に避難訓練が行われ、地域の方の参加もある。備蓄は今年度、水と栄養補助食品が用意された。	引き続き、地域住民との協力体制の確立に向けた取り組みが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや言葉遣い、対応など不十分な職員もいる。	職員による内部研修会を開催され、人格やプライバシーを尊重した関わりが全職員で行っていきけるよう取り組まれている。	全職員の周知・徹底した対応ができるよう、継続した研修が望まれます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる声掛け、働きかけも十分ではない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを考慮し本人の思いを考え柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の着替えなどできるだけ一緒に選ぶようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、片づけともにほとんど職員が行っている。	片付けや台拭き等、役割を発揮できる利用者もいるが、職員の働きかけが少ないように感じられる。普段はチルド食であるが、行事でケーキやちらし寿司等利用者と共に作る場面もある。	食事は生活に密着した場面であり、残存能力を発揮しやすく、共に暮らしを支える者として、職員の支援の検討が望まれます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要あれば、刻み食にし水分も、本人の好みにできるだけ合わせた物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員ではないが毎食後口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意の無い方でも定期的にトイレ誘導をしてトイレでの排泄ができるよう支援している。	日中はリハビリパンツやパットを使用し、個別で誘導し、トイレでの排泄に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクで運動や体操を取り入れている。水分摂取も数種類の飲み物を好みに合わせて提供し水分摂取を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決めているが、時間は夕方までの時間帯で本人の希望にできるだけ合わせるようにしている。	週3回のペースで入浴ができるよう配慮されている。夜の入浴についての希望も聞かれているが、現在はまだ対応が難しく検討されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況に応じて、必要あれば声掛けし休息をとってもらえるよう援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに処方薬と効能、副作用などが書いてある用紙を閉じ、すぐ確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動を行ったり、毎月行事を行い、季節を感じ楽しみとしていただけるよう援助している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の方と個別に外出される事はあるも、地域の人々が関わる事はない。希望により行先を決め皆で行けるように支援している。	季節に合わせて皆でドライブに出掛ける支援をされている。買い物に出掛けた際に自宅近くをドライブすることもある。	事前に行きたい場所を聞き出し、計画をして、対応されてはいかがでしょうか。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使う際は職員と一緒に行動し、使えるよう援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は公衆電話を使っただき、上手く使えるよう援助している。手紙を書かれる方は今のところおられない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明は落ち着いた配色である。ホールには季節感のある飾りや花を飾ってある。	共有空間は天井が高く古民家風で落ち着ける雰囲気を出している。テーブルの位置や配席を工夫して、皆が落ち着いて楽しく過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士で過ごせる空間はあるも、独りになれる空間は自室以外はほとんど無い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具や小物は自宅より持ってきてもらい、本人の好みになるべく近づけている。	居室には家族写真や作品が飾られ、本人が落ち着いて過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に顔写真を貼り、すぐ自室がわかるようにしている。ホールの椅子や机の配置も自分で座りやすいように配置している。		